

令和元年 5 月 27 日開催

第 4 回岸和田市立小中学校等規模及び配置適正化審議会主な意見のとりまとめ

議題（１）事務局からの報告について

議題（２）小中学校の適正な学校規模の基本的な考え方について

○教職員として一番大切なことは児童生徒に寄り添う時間を十分に持つことである。小規模の学校では教職員が少ないことにより校務分掌の負担が大きくなり、また部活動に影響が出ることは問題ではないか。

○校務分掌について、学校規模の違いにより全体の業務量にも差が生じるので、先生方の負担増加とそのままイコールにならないのではないかと。

○学校規模の違いによる校務分掌の負担については総合的に考えないといけない。

○これからの学校のあり方と教育のあり方は密接に関連するので、今後どのような教育の中身を作っていきたいかという事と、常にリンクさせながら学校規模等を考える必要がある。

○「基準」と「標準」の言葉遣いについて、慎重に使い分けする必要がある。「基準」の方が厳しく、「標準」の方が緩やかという解釈になる。

○クラスの人数を減らすということは、教員の負担を減らす有効策である。1 クラスの望ましい実人数を提言するというのは大きな意味がある。より踏み込んだ中身にし、先生の励ましになればいい。

○実人数としての望ましい学級規模を言及するのなら、下限の人数にももう少し幅を持たせた方がいいのでは。

○諮問内容は「学校規模」が一番大きなテーマである。学級規模の議論も大事だが、様々な意見があるので、例えば「多くても 35 人まで」といった表現が適当ではないか。

○諮問事項は「学校規模」であるが、学級規模も重要な案件なので、学級規模については付加的ということとで受け止めたらいい。「25 人～35 人」というぐらいにしておくのはいかがか。ただ当面は 35 人が共通した目標だと思う。

○望ましい学校規模の前提として、これは標準的な目安であり、それ以外は不適正ということではない。この部分は大変大事なことである。

○子どもが通う中学校ではクラスが減った影響により先生の数も減り、今年度から技術と家庭科を 1 人の先生が担当している。保護者からは心配の声も挙がっている。

【まとめ】

○小中学校の適正な学校規模の基本的な考え方については、概ね資料④で示されている内容で考えとし、次回までに結論を出すということにする。